

スッポンMPX (SDR-11・SDR-13.6)

50~250 施工手順

標準位置
K寸メジャー



注意

- ・ ストップリング内面は素手で触ると危険ですので十分注意して下さい。
- ・ 必ず施工手順を守り、施工して下さい。
施工手順を守らない場合、漏水等事故の危険性があります。
- ・ パイプが扁平して適用管外径より大きくなっている場合は、補正してから挿入して下さい。
- ・ 手順とは違い、ストップリングを先に本締めした場合、締付トルクが高くなります。

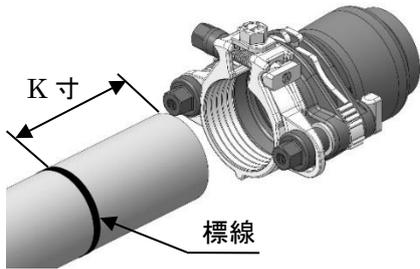
① パイプ挿入量記入

パイプ挿入量 (K 寸) を測り、**標線** を記入して下さい。

〔パイプ切断のカエリは取り除いて下さい。
滑剤の塗布は不要です。〕

継手：MPX-MP-P、MPX-MP-V、MPX-MP-D、
MPX-MP-A、MPX-MP-CAPII

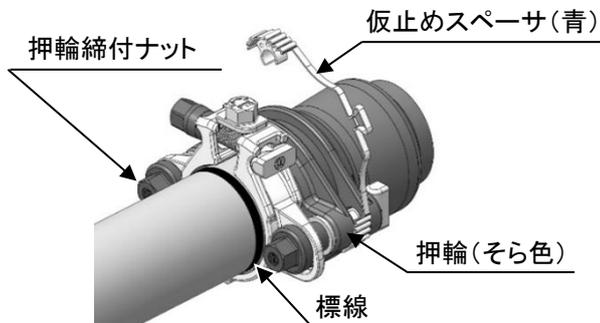
異形管：上記以外



② パイプ挿入

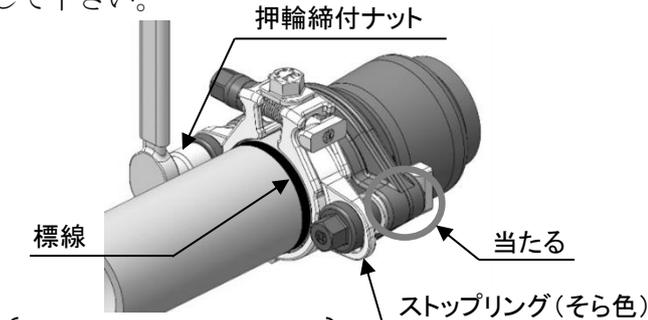
分解せずに継手を**標線**まで入れ、**仮止めスペーサ**を取り外します。

- ・ 仮止めスペーサが外れにくい場合は押輪締付ナットを少し緩めて下さい。



③ 押輪本締め

パイプが仮固定するまで、**押輪締付ナット**を軽く手締めした後、ストップリングは押輪と接した状態で**標線**と合わせ、**押輪締付ナット**を**押輪**が本体に当たるまで数回にわたり**均等**に本締めして下さい。



〔標線とストップリングのズレ
許容寸法：10mm程度〕

□ K寸の表と締付状態・ボルトサイズ

呼び径	K(mm)		締付状態 (参考締付トルク N・m)		ボルトサイズ
	継手	異形管	押輪	ストップリング	
50	100	100	当て締め	(35~45)	M16
75	105	105		(30~40)	
100	140	140		(30~40)	
150	165	165		(35~45)	
200	205	205		(50~70)	
250	220	220		(130~150)	
			当て締め	(25~45)	M16
				(40~60)	M16
				(70~90)	M20
				(80~100)	M24
				(110~140)	M20・M24

※ () 内は当て締め時の参考締付トルクとなります。
低温時は締付トルクが高くなります。

④ 開放ナット・開放工具取り外し

開放ナット・開放工具を取り外します。

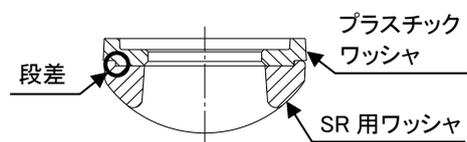
- ・ 開放ナットの外し方は、開放ナットを「S」の方向(左回り)に回して取り外して下さい。
- ・ 開放工具の外し方は、六角ボルトを緩める方向に回して取り外して下さい。



⑤ ストップリング仮締め

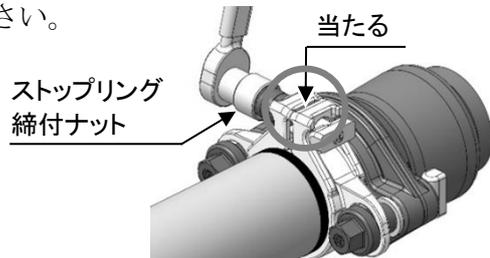
ストップリング締付ボルトのガタツキがなくなるまで締付ナットを手締めして下さい。

呼び径 100~250 は SR 用ワッシャとプラスチックワッシャの段差がきちんとはまっていることを確認して下さい。



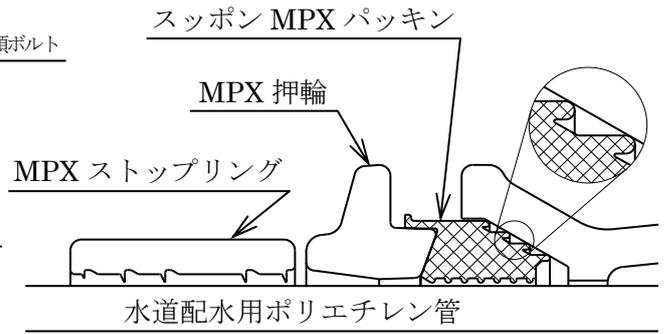
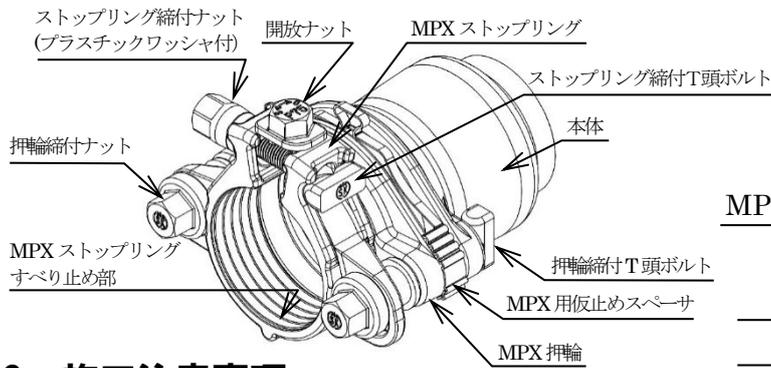
⑥ ストップリング本締め

ストップリング先端が当たるまで締付ナットを本締めして下さい。



5
10
15
20 [cm]
25 (管端側)
28

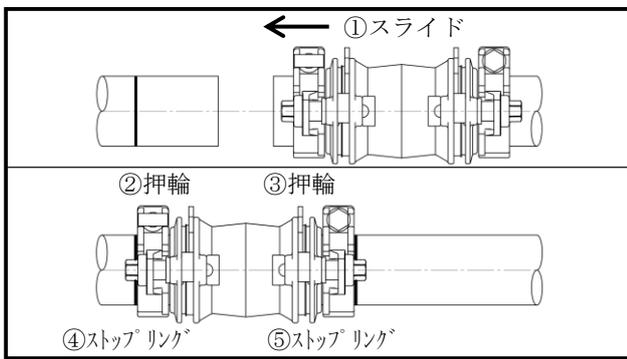
1. スッポンMPXの各部名称



2. 施工注意事項

● 管挿入時

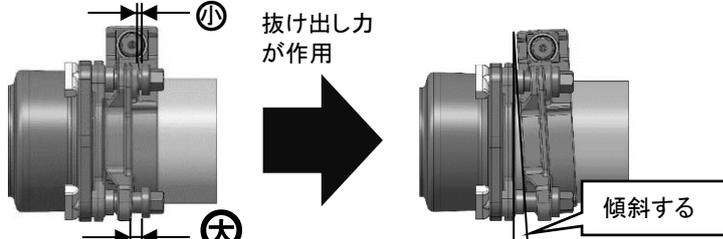
- 1) 直線管路に施工する場合は、あらかじめ両側受口に管を挿入した後に、両側の押輪を締め付け、最後に両側ストップリングを締め付けるという順番で施工することで、施工しやすくなります。



● 押輪締め付時

- 1) インパクトレンチにて施工される場合は、対角の押輪締め付ナットを交互に均等になるように締め付けて下さい。

● 施工後のストップリング位置 (呼び径 100 以上)



・ストップリングとストップナットのスキマは上側が小さく、下側が大きくなっています

・抜出し力が作用するとストップリングが傾き、離脱阻止力をさらに向上させる構造

● ストップリング締め付時

- 1) インパクトレンチを使用する場合は、ストップリングが管に仮固定するまで手締めなどで締め付けてから使用して下さい。
- 2) 呼び径 100~250 の場合、ストップリングを締め始める際に SR 用ワッシャとプラスチックワッシャの段差がきちんとはまっていることを確認して下さい。

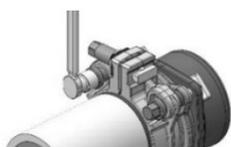
○ 良い例	× 悪い例
段差がきちんとはまっている	プラスチックワッシャが浮き上がっている

- 3) ストップリング本締め時、早く締め付けるとトルクが高くなります。(1ストローク1秒程度が目安)
- 4) 伏せ越しなどの場合、ストップリングを分解しなくてもストップリング締め付T頭ボルト・ナットの向きを変えるだけで対応できます。

3. 開放ナット使用手順 (呼び径 50~150)

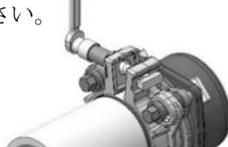
① 押輪を緩める

押輪を緩めて下さい。



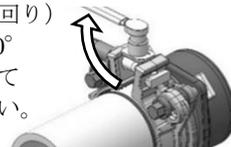
② ストップリングを緩める

ストップリングを分解しない程度まで緩めて下さい。



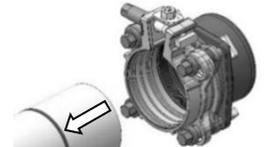
③ 開放ナットの取り付け

開放ナットを挿入し、開放ナットを「0」の方向(右回り)に90°回して下さい。



④ パイプの開放

パイプを外して下さい。



4. 開放工具使用手順 (呼び径 200・250)

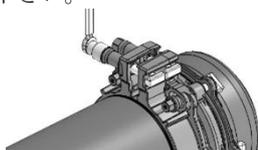
① 押輪を緩める

押輪を緩めて下さい。



② ストップリングを緩める

ストップリングを分解しない程度まで緩めて下さい。



③ 開放工具の取り付け

開放工具を取り付け、六角ボルトを締める方向に回してストップリングを開いて下さい。



④ パイプの開放

パイプを外して下さい。

